

さくま
佐久間地蔵（金屋地区）

丹後の森の交差点から30mほど南（清水方面）に進んだ国道480号沿いに、「佐久間地蔵」と呼ばれるお地蔵さんが祭られています。お地蔵さんの名前に付く「佐久間」は、戦国時代に活躍した武将である佐久間盛政（1554～1583）にゆかりがあると言い伝えられています。

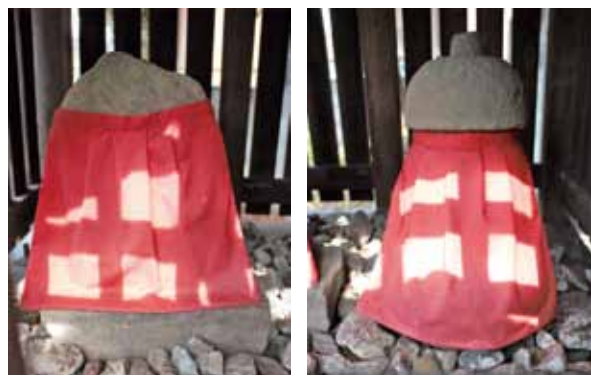
佐久間盛政は尾張国御器所城（現在の愛知県名古屋（古屋市））に生誕し、織田信長の家臣として仕え、信長の重臣であった柴田勝家を叔父に持つ人物です。身長は六尺（約180cm）ほどの巨漢であったと伝えられ、その勇猛さから「鬼玄蕃」という異名で呼ばれています。盛政は、主に能登・加賀方面（現在の石川県）の一向一揆の鎮圧に奔走し、その功績によって加賀半国の支配が認められました。1582年に本能寺の変で信長が横死し、その後の羽柴秀吉と柴田勝家による跡目争いでは勝家に属し、秀吉の家臣であった中川清秀を討ち取るなど戦果を挙げます。しかし、賤ヶ岳（滋賀県

長浜市）での合戦に敗れて捕らえられ、勝家が越前北庄城（現在の福井市）で自害した後は、秀吉から家臣となるよう誘われますが拒絶したため斬首されました。

金屋町誌によると、盛政には3人の息子がおり、長男は盛政と運命を共にしましたが、弟2人は高野山にとどまった後、江戸時代には金屋村（現在の金屋地区）で医者になったと言われています。次男は、紀州藩お抱えの医者となり、三男は金屋村で医者をつけたそうです。佐久間地蔵は、医者となった佐久間家が屋敷でお祭りしていたものと伝えられており、今もお花が供えられるなど地元の人々に信仰されています。祠の中には、石仏（写真左）と並んで中世に遡る古い時代の五輪塔の一部（写真右）がお地蔵さんとしてお祭りされています。



佐久間地蔵を祭るほこら



佐久間地蔵 石仏（左）と五輪塔の一部（右）